

「パロディ」な文章

「パロディ」とは

パロディー [parody] 既成の著名な作品また他人の文体・韻律などの特色を一見してわかるように残したまま、全く違った内容を表現して、風刺・滑稽を感じさせるように作り変えた文学作品。日本の本歌取り・狂歌・替え歌などもその例。演劇・音楽・美術にも同様のことが見られる。≪三省堂『大辞林』第二版より≫

たとえば、文章作品では、夏目漱石の小説を元にした作品『我が輩は……である』形式の『吾輩ハ鼠デアル』『我輩ハ小僧デアル』『吾輩はビールである』といった多くのパロディーなどが知られている。

なかでも極めつけは、芥川賞作家である奥泉 光著『吾輩は猫である』『殺人事件』（新潮文庫刊）であるまいか。もう既にお読みなられた方も再度どこがパロディーなのか考えてみると良いかも知れない。タイトルの「……殺人事件」とあるからこれはミステリー小説かと思いきまされてしまうだろうが、これはミステリー小説というよりパロディーな作品というのが本音であろう。著者の「オクイズミヒカル」には、他にも漱石小説の『坊っちゃん』をモチーフに幕末の京都を舞台にした時代小説と思わせる『坊ちゃん忍者幕末見聞録』（中公文庫）もある。



そこで、なぜ「パロディ」な文章を学習するのかということだが、『大辞林』が説くように、日本の古典文学作品における韻文学における「本歌取り・狂歌・替え歌」もこの範疇に容れて考えて良い。また、物語文学では『伊勢物語』を『仁勢物語』、『枕草子』を『犬草子』としたものも含まれてくる。こうした基幹文学作品と呼ばれる名作には、この手の「パロディ」な作品が発生しやすいということにもなる。

パロディな文章を学習する

(1) パロディは粋な遊び

たくはへもみな月はてゝ一文もけふは なごしのはらいだにせず

この江戸時代の狂歌を読みやすく仕立て直すと、「蓄えも皆尽き（水無月）果てゝ一文も今日は夏越しの祓いだにせず」となる。「夏越しの祓い」は、旧暦六月の晦日の行事で、六月の末、つまり半期の支払いの意味を振っている。この遊び心を燦らせていくと、こんな酒の上での会話が弾み出す。「俺の酒は『義経千本桜』なんだ」「ほう？なに？」「静かに、只呑む」といった落語の三段なぞめいた語りとなる。このときに、歌舞伎『義経千本桜』の内容を知らない無智な輩には、とんとその意味合いが理會できないのである。ここに、義経の愛妾「静御前」とその勇臣である「佐藤忠信」を知らなければさっぱり判らないからだ。



歴史上の人物である源義経を題材にしたパロディも後を絶たないことは云うまでもないことだが、推理作家の高木彬光著『成吉思汗の秘密』〔光文社刊〕もその一例としておきたい。この文章は、源義経が高館の戦で自刃せず、東北を北上し北海道に渡り、そこから更に大陸に渡って、モンゴル帝国を築いたチンギスハーンとなったという風説を推理・論証した作品である。この義経Ⅱチンギスハーンを結びつける一つに、静御前が源頼朝・北条政子の御前で義経を偲びながら舞哥する



しづやしづ賤のをだまきくり返し 昔を今になすよしもがな

に敷衍させ、「なすよしもがな」を漢字表記することで「成吉思汗」とするとところは見事な論証の落としどころともいえる。ここで、森鷗外『かのように』〔中央公論〕一九二二(明治45)年一月初出〕は極めつけとなる。一文を二例ここに抜粋しておこう。

①「お母あ様程には、秀磨の健康状態に就いて悲観していない父の子爵が、いつだったか食事の時息子を顧みて、「「肚皮時宜に合わずかな」

と云つて、意味ありげに笑った。」
②「なぜって知れているじゃないか。人に君のような考になれと云つたつて、誰がなるものか。百姓はシの字を書いた三角の物を額へ当てて、先祖の幽霊が盆にのこのこ歩いて来ると思っている。道学先生は義務の発電所のようなものが、天の上かどこかにあって、自分の教わった師匠がその電気を取り続いで、自分に掛けてくれて、そのお蔭で自分が生涯びりびりと動いているように思っている。みんな手応のあるものを向うに見ているから、崇拜も出来れば、遵奉も出来るのだ。人に僕のかい

た裸体画を一枚遣つて、女房を持たずにいろ、けしからん所へ往かずにいる、これを生きた女であるかのように思えと云つたつて、聴くものか。君のかのようにはそれだ。」

(2) 日本人なら漢字で感じを悟る

漢字で表記された文章には、その漢字そのものが読みにくく、漢字を知らないで読んでも「チンプンカンプン」なことしか知り得ない。そこで、その読めそうもない漢字ことばを揚げておくことにする。

《問題》次の漢字を読んでみましょう。(各2点×50)

- | | | | | | | | |
|---------|---------|---------|---------|--------|--------|--------|--------|
| 1, 久振 | 2, 師走 | 3, 畢竟 | 4, 只管 | 5, 就中 | 6, 微衷 | 7, 荆棘 | 8, 黄昏 |
| 9, 刀自 | 10, 傳育 | 11, 書肆 | 12, 惹句 | 13, 瞋恚 | 14, 快哉 | 15, 知己 | 16, 兵站 |
| 17, 狷介 | 18, 仮初 | 19, 胡散 | 20, 云云 | 21, 啓蟄 | 22, 面炮 | 23, 悉皆 | 24, 欠伸 |
| 25, 流石 | 26, 仮令 | 27, 生憎 | 28, 誰何 | 29, 上梓 | 30, 暇乞 | 31, 塩梅 | 32, 聾盲 |
| 33, 忸怩 | 34, 涅槃 | 35, 反故 | 36, 隣寸 | 37, 狼煙 | 38, 大姉 | 39, 衆生 | 40, 石女 |
| 41, 端倪 | 42, 怯懦 | 43, 剽窃 | 44, 鳥渡 | 45, 棧敷 | 46, 含嗽 | | |
| 47, 下于人 | 48, 五月蠅 | 49, 木乃伊 | 50, 美人局 | | | | |

この五十字の漢字ことばは、いずれも明治期から昭和期までの作品から引用している。当然前後の文脈があるわけである。どのような作者の、どのような作品に用いられていることばなのかを探る楽しみが読む側にはあるわけだ。ただ漢字ことばだけをすらすら読めるだけの漢字力を高めただけで終わるよりは、その漢字ことばの使用されていることばの背後を知ることその意味合いを含め、文章表現能力を高めていく動機になることは云うまでもなからう。

1, 【久振】であれば、夏目漱石『坊っちゃん』に「その晩は久し振ひさぶりに蕎麦を食ったので、旨うまかったから天麩羅を四杯一平たらげた。」にはじまり、永井荷風『西遊日誌抄』に「久振今村子と共に中央公園を歩み樹間のベンチに語る」と引用されている。これを調べてみることでこうした漢字ことばから少しずつ広がり始めていくことになるからだ。

とはいえ、昨今のパソコンの普及に伴って、経済社会をはじめとし、学校教育における日本の識字能力は、書くという文章力を凡てワードプロセッサに委ねつつあることも事実である。ここでも漢字は忽ち一画一画丹念に筆記しなくても、キー入力だけで単簡に記述されていくからだ。このままでは、伝統的な手書きの能力そのものが衰退してしまうことを歎くのは簡単だが、これを遺す方法はないものか、もっと模索するべきであり、まだ諦めてはいけないと私は考えている。

(3) 「離合漢字」を用いる

私は、離合漢字を研究して思ったことあがる。それは、ここに収載された離合漢字の資料を日本人の学習者が驚くほど長い年月に亘って「読み書き」に用いてきたことである。その資料の名前は、『小野篁歌字尽』と云う江戸時代の寺子屋での教科書として、約三百年間京都を中心に大坂・江戸各地で出版され続け、その冊数は数千種にも及ぶものである。現存する資料では寛文二年（一六六二）一月刊本（京都・近江屋次良右衛門板）や図絵にした「寛文十一年辛亥正月吉日松會開板」の奥書きを有する小泉吉栄個人蔵の版本が最古（一六七一年）の江戸開板資料があり、当時の漢字学習の様子が垣間見られるのである。これ以前にも室町時代に『瑠玉集』が「天一大地土也」として、「天はもっぱら大きなり、地はつちなり」という資料が知られ、これは江戸時代になると『弘法大師離合歌』として出版されている。これらの資料は、私の紀要論文資料として採り上げているので参照されたい。



木 椿 榎 楸 柞

春をばつばき 夏は多のきに 秋ひさぎ 冬はひらぎ

爪 瓜 樂 樂 樂

つめにつめなくうりにつめあり

らくがくぎやうはくじもく也

白 自 目

この「離合漢字」は、61「巳己巳己」の文字にも生かされていて「巳にかみ己にはしもにつきにけり。巳は皆はなれ巳は皆つく」となる。この学習方法には、漢字ことばの微妙な点面の違いを分析し、説明しているのであるが、これを実行すると旧字であろうが知る手がかりにはなるはずである。例えば、「壽」字の場あいには「土のフエは一寸」と書くと言えりや方である。「次の皿を隠して持ち帰るのは盗みです」「心を亡くすとすべて忘れてしまう」「衣の真ん中を執つてしまうと猥褻」「戀は糸し糸しと言ふ心」というなど図り知れない考察力が働くことにもなる。

やって見る価値はあるというものである。「石に当たれば皮も破ける」「柴又帝釈天の辺で風天の寅さんが演説します」という塩梅で読み上げ学習も可能になり、その覚える効果も倍増していく。どうぞ、お試しあれ。この「演説」なることば、本年一月二十七日付朝日新聞「天声人語」欄に、福沢諭吉が「演舌」を「演説」に改変して登場した近代の造成漢字だというのが真相は如何なものか……。

最後に禅語ならぬ前後左右の文字による名文句を披露しておく。京都竜安寺の蹲いに水戸光圀が献上した「知足の蹲い」がある。これは「口」字を中心に前後左右四文字を表現したものであり、「吾れ、唯だ、足るを知る」と時計回りに読むのである。この前後左右ならぬ禅語の奥行きを今に示していることの漢字の有する凄さを学ぶことになるからである。この模造は、水戸の偕楽園にも設置されているので、機会があれば是非見ておくとよいであろう。



そこで、「口」字を中心とした前後左右の四文字を他に作ることをここに提案する。貴方であれば、

どんな禅語が生み出せるであろう。もし、「口」文字でなければ、「日」「月」「山」「木」ではどうであろう。試みに一つ、「吉叶呆加」は、

十
吉叶きちかなふは呆ぼけ加くははる…吉きちき事ことがかなうというのは呆ぼけの始はじまりかもしれぬぞ
力

と云った誠語めいた表現になる。これは時間を要する言語的遊戯なのだから、時間をゆったり過せる環境に身をおかないと生み出せないのかも知れない。何はともあれ、挑戦してみたい。

縦文字遊びと横文字遊び

芦——扇——翌——音——晨——盛——衆
戸——戸羽——羽立——立日——日成——成皿——皿承

ここで、何を学ぶかと云えば、部首の上下型と左右型である。それぞれ二十四組を学習する能力を身につけておくと良からう。

【上下型】

竹 土 馬 穴 心 皿 手 日 皿 言 雨 肉 力 石 木 食 音 糸 車 女

【左右型】

木 食 月 欠 舟 言 金 王 車 馬 女 貝 才 日 酉 耳 ネ 斤 牛 禾

例えば、「電柱のそばに駐車して付近の住民に注意された」という文章には、「主」文字を基調とした四文字が盛り込まれている。同じように、「衛星の緯度と偉人の違反は判らない」や「最低の抵抗で底地の豪邸がある祇園をまもった」式の文章を身につけることにもなる。

パロディーな文章を書く

実際に、書くことを目的とした場あい、どんな効果が発揮されるであろう……。人を惹きつける効果を目的とした広告文や宣伝文は当にこの世界に基盤があるのである。いずれも時間を懸けて、熟慮のうえに成り立つのがこの世界でもある。

たとえば、我が故郷である県名を賢明に懸命して件名にするとどうであろう。

食道楽、おさかなふんだん大阪府

もの静かなお母さん静岡県

常緑の木に花が咲きます長崎県

こんなことも出来そうである。

広告文に九月二十日はバスの日、「みんなバスが好き」↓「ぼくはバストが好き」っていうのが昔あったことを記憶している。また、看板に「ハタ旗店」↓「ハタハタとハタはハタめく」も大阪府都島区都島北通にある店の名である。

これは、いかがかな……。一九八六年一〇〇万円大賞の銀賞

NTT

男 A (相手を探る感じで。以下も同じ) 「もしもし」

男 B (普通に。以下も同じ) 「もしもし」

男 A 「山」

男 B 「川」

男 A 「月」

男 B 「影」

男 A 「桜」

男 B 「バラ科に属する落葉高木」

男 A (緊張を解いて) 「高橋さんですね」

男 B 「鈴木です」

男 A (うろたえて) 「す、すいません、間違えました」

N 番号はお確かめのうえ。 M NTT

最後に、クボタのキャッチフレーズ、「ヒントは、ヒトのなかにある。」で留め置き。

この「ヒト」ということば、「他人事」と書いて「ひとごと」と読む。この「他」字を抜くと「人事」で意味も読みも変わってしまう。昨今、多くの日本人ですら「他人事」を「タニンごと」と読んでいるが、正しい日本語は「ひとごと」で「他人」の意である。「ヒトの噂も七十五日」「ヒトのふり見てわがふり直せ」「ヒトの特鼻禪で相撲をとる」「ヒトの花は赤い」「ヒトの痛いのは三年でも我慢する」「ヒトはヒト、おれはおれ」「ヒトを呪わば穴二つ」「ヒトを怨むより我が身を怨め」「情けはヒトのためならず」「ヒトをそしるは雁の味」「ヒトの蠅を逐うより己の蠅を逐え」